

再評価結果(令和7年度事業継続箇所)

担 当 課：道路局 国道・技術課

担当課長名： 西川 昌宏

事業名	一般国道44号 おぼろいといざわ 尾幌系魚沢道路			事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局			
起終点	白: ほっかいどうあつけし 北海道厚岸郡厚岸町尾幌 至: ほっかいどうあつけし 北海道厚岸郡厚岸町系魚沢					延長	24.7km			
事業概要										
国道44号は、釧路市を起点とし、釧路町、厚岸町を經由して根室市に至る幹線道路である。 尾幌系魚沢道路は、津波浸水被害などの災害時の救急活動等においても機能する信頼性の高い道路ネットワークの構築、農産品の輸送能力向上による物流効率化や観光周遊性の向上を支援すること等を目的とした厚岸町尾幌から厚岸町系魚沢に至る延長24.7kmの事業である。										
H31年度事業化			R一年度都市計画決定 (R一年度変更)		R3年度用地補償着手		R3年度工事着手			
全体事業費		約1,069億円		事業進捗率 (令和6年3月末時点)		約13%		供用済延長	O.0km	
計画交通量		5,200～16,500台/日								
費用対効果分析	B/C		EIRR		総費用		総便益		基準年	
	(事業全体)		(事業全体)		(残事業)/(事業全体)		(残事業)/(事業全体)			
	1.2(0.9)				748/7,157億円		752/8,724億円			
	(参考)	1.6(1.3)	[2%]	5.0%(3.4%)	事業費: 704/6,656億円		走行時間短縮便益: 645/6,940億円		令和6年	
		1.9(1.6)	[1%]		維持管理費: 45/364億円		走行経費減少便益: 92/1,485億円			
					更新費: —/136億円		交通事故減少便益: 16/299億円			
(残事業)		(残事業)		感度分析	(事業全体)		(残事業)			
(参考)	1.01(1.02)		4.0%(4.1%)		交通量	B/C=1.1～1.4(±10%)		交通量	B/C=0.9～1.1(±10%)	
	1.5(1.5)	[2%]			事業費	B/C=1.2～1.2(±10%)		事業費	B/C=0.9～1.1(±10%)	
	1.8(1.8)	[1%]			事業期間	B/C=1.2～1.2(±20%)		事業期間	B/C=0.9～1.02(±20%)	
事業の効果等										
事業の必要性及び効果										
① 災害時の輸送ルート強化 ・災害発生時における大規模な迂回の回避及び災害により被災した地域への救援物資等の輸送の確実性向上が期待される。										
② 救急搬送の安定性向上 ・当該道路周辺地域から釧路市への救急搬送時間が短縮され、救急搬送の速達性・安定性向上が期待される。										
③ 水産品の流通利便性向上 ・道内各地のみならず苫小牧港や釧路空港等から全国各地へ出荷される水産品の流通利便性向上が期待される。										
④ 重要港湾釧路港の流通利便性向上 ・飼肥料や乳製品の釧路～根室間における安定的な輸送が可能となり、重要港湾釧路港の流通利便性向上が期待される。										
⑤ 主要な観光地への移動利便性向上 ・釧路～根室間の移動利便性が向上し、釧路地域の更なる観光活性化が期待される。										

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等:

釧路市など1市10町1村の首長等で構成される「北海道横断自動車道釧路地区早期建設促進期成会」等から整備促進の要望を受けている。

知事の意見:

「一般国道44号 尾幌糸魚沢道路」事業を「継続」とした「対応方針(原案)」案について、異議はありません。当該事業は、道央・十勝・釧路・根室圏の連絡機能の強化による地域間交流の拡大や広域観光の振興、物流の効率化、災害時の輸送ルート強化などが図られ、経済・社会活動の活性化や道民の安全・安心な暮らしの確保に寄与することから、早期供用をお願いいたします。

なお、事業の実施にあたっては、周辺環境への影響を最小限にとどめるとともに、より一層の徹底したコスト縮減を図り、これまで以上に効率的・効果的な執行に努めるようお願いいたします。

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・令和元年 8月 北海道内国管理4空港特定運営事業等基本協定書締結
- ・令和 2年 1月 北海道内7空港民間運営開始
- ・令和 2年 3月 一般国道44号 根室道路 全線開通
- ・令和 6年度 北海道横断自動車道 阿寒IC～釧路西IC開通予定
- ・令和 6年度 一般国道38号 釧路新道 全線4車線開通予定

事業の進捗状況、残事業の内容等

令和3年度に工事着工して、用地進捗率20%、事業進捗率13%となっている。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、早期開通に向けて事業を進める。

(令和6年3月末時点)

施設の構造や工法の変更等

引き続き、コスト縮減に取り組んでいく。

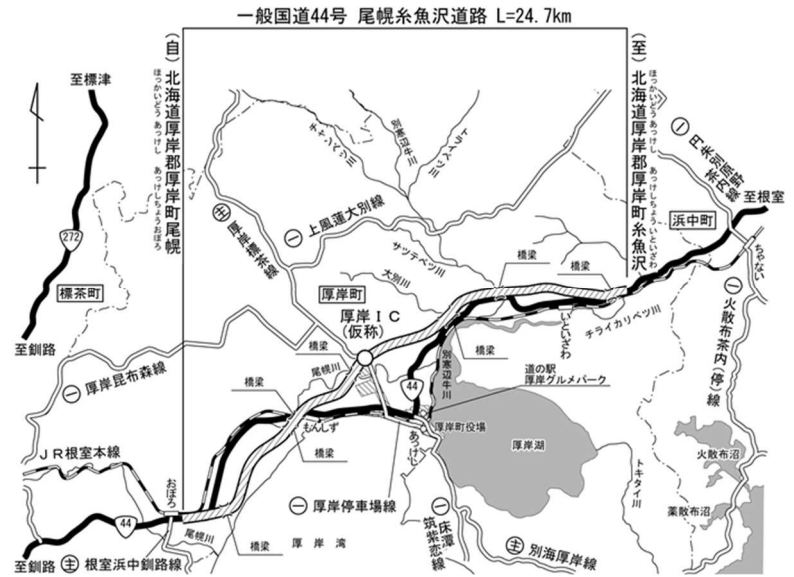
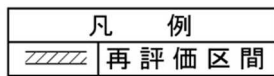
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。([]内は社会的割引率の値)

※B/Cの値は、本別JCT～根室ICを対象とした場合、()書きの値は事業化区間を対象にした場合の費用便益分析結果。